

PAUL NEWMAN

時代に愛され、世界が憧れた
 永遠のハリウッド・スター

明日に向かって撃て!

BUTCH CASSIDY AND THE SUNDANCE KID

熱いタン屋根の猫

CAT ON A HOT TIN ROOF

ハスラー

THE HUSTLER

暴力脱獄

COOL HAND LUKE



アクターズ・スタジオ出身の俳優がハリウッド進出し、斬新なメソッド演技で観客を魅了し始めた50年代に活動をスタートさせたポール・ニューマン。いわば、古き良きハリウッドを知る世代最後のアイコンだ。彼が得意としたのは、葛藤を乗り越えて贖罪と許しを得る負け犬役で、スターダムを駆け上がるきっかけとなった『ハスラー』のエディはその金字塔。『暴力脱獄』で演じたルークは無鉄砲に勝負を仕掛けては、負け続ける(唯一の勝利がゆで卵50個を食べる賭け!?)。エディもルークもまさにダメ男なのだが、ツツパリ続ける姿が母性本能をくすぐり、とても愛しく思えてくる。『熱いタン屋根の猫』で演じた、手に入らない愛を求めて苦悩するブリックもまた精神的には負け犬だ。ただし負けを認めての大団円が実に50年代的で、ロマンス小説のようなエンディングも

ニューマンだから説得力が加わったと言える。一方、負けても懲りないのが『明日に向かって撃て』のブッチだ。「ジョン・ウェインは逃げない」と昔気質の映画会社社長が難色を示した脚本だったが、悲惨な状況でも常に前向きで、最後の最後まで軽口を叩く明るいアウトローにニューマンがチャーミングな息吹を吹き込み、映画史に残る作品となった。リー・ストラッスバーグの薫陶を受けたリアリズムを追求する演技だけではない。プロンドとベビーブルーの瞳、いたずらっ子のような笑顔で老若男女をノックアウトしたニューマン。映画界に輝かしい功績を残し、今なお多くの俳優をインスパイアし続ける彼の弾けるようなエネルギーを感じてほしい。

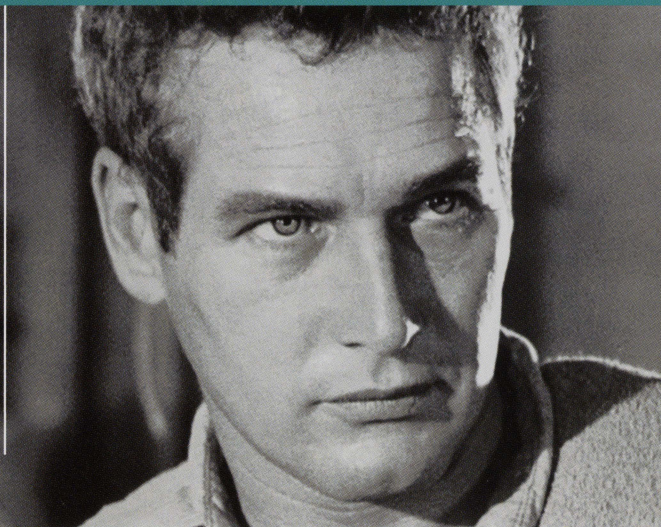
山縣みどり(映画ライター)

誰もが知る不朽の名作や、密かに人気を博す隠れた傑作を、東京テアトルのセレクションで贈るスペシャル・プログラム。往年の映画ファンには古き良き時代の思い出の作品を再びスクリーンで堪能する喜びを、これまで旧作に馴染みのなかった若い世代には、クラシック映画の素晴らしさをお届けします。



PROFILE | ポール・ニューマン

1925年1月26日、アメリカ・オハイオ州クリーブランドに生まれる。家業のスポーツ用品店を継ぐが、俳優の道を諦めきれず、イエール大学の演劇大学院に進学。その演技力を見出され、ニューヨークでテレビや舞台を中心にキャリアを開始。ジェームズ・ディーンやマーロン・ブランドと共にアクターズ・スタジオで学び、1953年ブロードウェイの舞台『ピクニック』で一躍脚光を浴びる。『銀の盃』(54)で映画デビュー、初主演作『傷だらけの栄光』(56)に続き、『長く熱い夜』(58)でカンヌ国際映画祭の男優賞を受賞。『熱いタン屋根の猫』(59)でアカデミー賞主演男優賞に初ノミネート、『ハスラー』(61)で英国アカデミー賞男優賞を受賞。さらに『暴力脱獄』(67)で再びオスカーの有力候補に。名実ともに世界的トップスターの地位を築き、『明日に向かって撃て!』(69)は大ヒットを記録し、『スティック』(73)『タワーリング・インフェルノ』(74)『評決』(82)などの話題作を経て、『ハスラー2』(86)で初のアカデミー賞主演男優賞に輝く。その後も『ノーバディズ・フル』(94)でベルリン国際映画祭の銀熊賞(男優賞)を受賞。監督にも挑戦し、デビュー作『レーチェル・レーチェル』(68)はゴールデングローブ賞最優秀監督賞を受賞。熱心なレーシングカー・ドライバーとしても知られ、また食品会社「ニューマンズ・オウン」を自ら経営し利益を全てチャリティーに寄付するなど、実業家や社会活動家としても活躍。2008年、83歳で逝去。

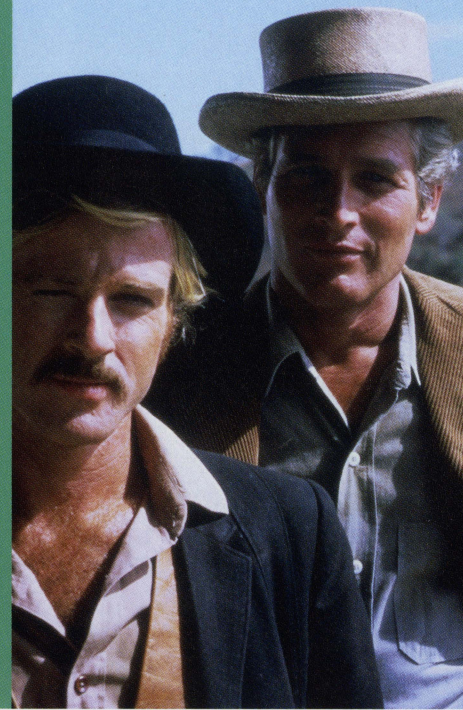


明日に向けて撃て!

強盗団「壁の穴」を率いて銀行や鉄道を襲撃するブッチ・キャンディと、相棒で凄腕ガンマンのサンダンス・キッドは、有名なお尋ね者だ。久々に戻ったアジトでボスの座を狙う手下ハーベイに決闘を挑まれたブッチは、卑怯な手を使って勝利する。さらにハーベイの考えた列車強盗を実行に移すが、6人組の追手が登場。ブッチとサンダンスに激怒した鉄道会社社長が追跡の専門家ボルチモア卿とレフォース保安官を雇ったのだ。追い詰められた岩山から川に飛び込み、窮地を切り抜けた二人は、サンダンスの恋人エッタを伴って南米ポリビアへの逃亡を決意。エッタから習った銀行強盗用スペイン語を使って銀行強盗を続けた二人は、追手を見かけて一度は真つ当な仕事につくが、長続きしなかった。逃亡生活に疲れたエッタは去り、二人に残された道は?

西部開拓時代から20世紀初頭にかけて銀行や鉄道を襲撃した実在のアウトローの物語であり、アメリカン・ニューシネマを代表する作品。ニューマンは、頭の回転が速く、銃やナイフよりも言葉を武器にするブッチを茶目つ気たっぷりに好演。相棒の恋人エッタを「未来の乗り物」自転車に乗せて走り回るシーンでは、美男子ロバート・レッドフォード顔負けの色香を発散し、女性ファンのハートをわしづかみ。今も普遍の煌めきを放ち、西部劇の傑作としても名高い《青春映画の金字塔》。

■監督:ジョージ・ロイ・ヒル ■出演:ポール・ニューマン、ロバート・レッドフォード、キャサリン・ロス
[1969年|110分|アメリカ|カラー|シネマスコープ|原題:Butch Cassidy and the Sundance Kid]
© 1969 Twentieth Century Fox Film Corporation



ハスラー

第34回 アカデミー賞(1962年) 男優賞:ノミネート
第19回 ゴールデングローブ賞(1962年) 最優秀主演男優賞(ドラマ部門):ノミネート

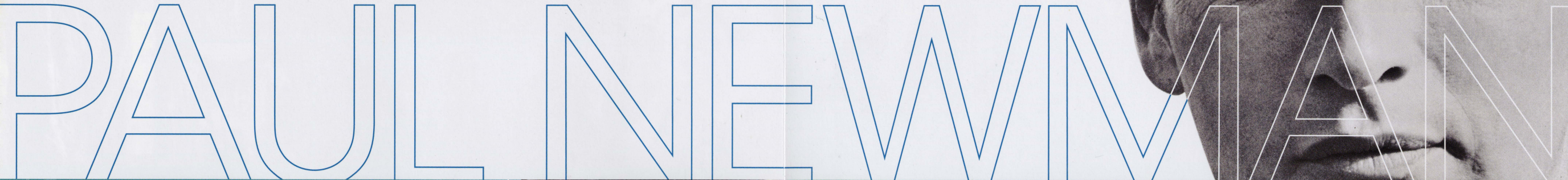
新進気鋭のハスラーのエディは、15年間無敗の大物ミネソタ・ファッツに戦いを挑む。最初は押されていたが、調子が上がったエディは宣言通りに1万ドル以上もの大金を稼ぐ。相棒チャーリーが止めるのも聞かず、一昼夜以上も勝負を続けたエディは、結局ファッツに大敗。エディはチャーリーをホテルに置き去りにし、カフェで本を読んでいたサラと名乗る女性をナンパ。数日後に再会した二人は同棲を始める。バーで賭けビリヤードをして小金を稼ぐエディは、地元のギャンブラーのゴードンと組むことにする。最初の勝負相手はケンタッキーの富豪で、慣れないスリークッションに苦しんだエディは最終的に勝利を収める。稼いだ金で再びファッツに戦いを挑むと勇んだエディだったが、ホテルに戻った彼を衝撃の事件が待っていた。主人公エディは勝ちに固執して自滅したり、ホテル代を浮かそうと女性をナンパしたり、恋人の財布から金をくすねたりと冷静に見るとダメ男。しかしニューマンが演じると、負け犬ですらかっこいいのだ。サラを演じたパイパー・ローリーが後のインタビューで「彼が美しいから、撮影中に気が散って困った」と語ったのも納得である。ニューマンは、エディが数々の障害を乗り越え、人間的に成長するさまを抑制した演技で見事に体现。まさに役者としての円熟期に差し掛かった60年代初期のニューマンの芸術性を方向付けたとも言える作品。後のマーティン・スコセッシ監督、トム・クルーズとの共演による続編「ハスラー2」も製作され大ヒットとなった。

■監督:ロバート・ロッセセン ■出演:ジャッキー・グリフソン、ポール・ニューマン、ジョージ・C・スコット、パイパー・ローリー
[1961年|135分|アメリカ|モノクロ|シネマスコープ|原題:The Hustler] © 1961 Twentieth Century Fox Film Corporation.



20世紀アメリカを代表する、永遠にカッコいい反逆児

タフで繊細、クールでチャーミング—— 映画史上最も美しい碧い瞳を持つ伝説のハリウッド・スター《ポール・ニューマン》の魅力あふれる4作品を一挙公開!



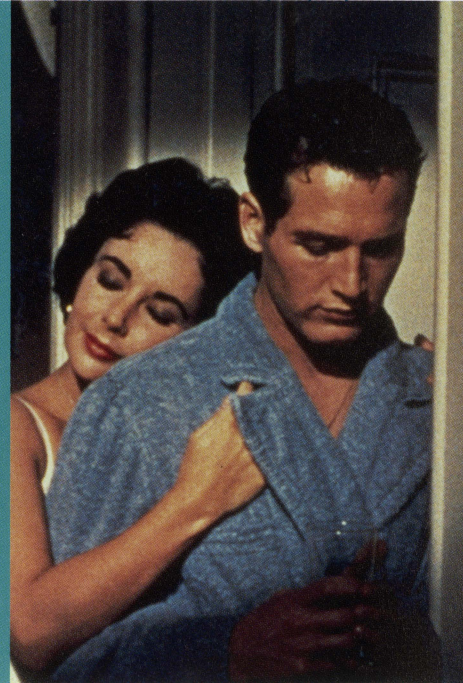
熱いタン屋根の猫

第31回 アカデミー賞(1959年) 男優賞:ノミネート

ミシシッピ州の大農園の次男ブリックは泥酔したままハードルを跳び、足首を骨折。翌日、邸宅では病院の検査を終えて帰宅する父ビッグ・ダディの誕生日の準備が行われていた。父の莫大な遺産を狙う長男グーバーと妻、その子供たちが賑やかに騒ぐ一方、ブリックと美しい妻マギーの間には冷え冷えとした空気が漂っていた。パーティーが一段落し、ビッグ・ダディは息子の飲酒癖と虚無的な生き方を叱責するが、ブリックは聞く耳を持たない。妻の愛も父親の遺産も受け取ることを拒否するブリックに苛立ったマギーは、ついにブリックの親友スキッパーの名前を出してしまう。

ニューマンが演じるブリックは、絶世の美女エリザベス・テラー(が演じるマギー)をして、「私を夢中にさせる美貌」と言わせる南部紳士。冒頭から思い詰めた目つきをしていて、美しくセクシーな妻の誘惑を拒むあたりから、何やら訳ありなのは一目瞭然。マッカーシズムが吹き荒れ、同性愛者への偏見が強かった時代にホモセクシュアルと推察されるキャラクターを堂々と演じたニューマンの演者としてのチャレンジ魂とリベラルな人間性にも感動するはず。人間のエゴイズムと愛憎を描き、ピュリッツァー賞にも輝いたテネシー・ウィリアムズの名戯曲が、ニューマンと大女優「リス」の競演で見事に映画化され大ヒットとなった。

■監督:リチャード・ブルックス ■原作:テネシー・ウィリアムズ ■出演:エリザベス・テラー、ポール・ニューマン、バル・アイブス
[1958年|108分|アメリカ|カラー|アメリカンビスタ|原題:Cat on a Hot Tin Roof] © 1958 WBEI



暴力脱獄

第40回 アカデミー賞(1968年) 男優賞:ノミネート
第25回 ゴールデングローブ賞(1968年) 最優秀主演男優賞(ドラマ部門):ノミネート

泥酔し、器物破損罪で懲役刑を受けたルークは、刑務所にぶち込まれる。囚人間のヒエラルキーを無視するルークは囚人ボスの怒りを買ひ、二人はボクシングで決着をつけることに。大柄なボスのパンチに屈しないルークは、彼と囚人仲間から一目置かれることになる。やがてルークの母親の訃報が届くと、刑務所長は彼の脱獄を危惧し懲罰房に入れてしまう。ルークは脱獄するも、捕えられて懲罰を受ける。しかし再び脱獄。ルークは脱獄中、彼のあだ名「クール・ハンド」とサインした写真が載った雑誌を囚人ボスに送り、仲間たちは彼の自由をうらやむのだった。が、それも束の間、再び捕縛されたルークを待っていたのは、「脱走したら射殺する」との警告と残酷な懲罰。涙ながらに「もう逃げない」と誓うルークに囚人仲間は冷やかな目を向けるが……。

ポール・ニューマンのカリスマ性が際立つ人間ドラマ。彼が演じたルークは体制に屈することなく、どんな負いでも負けを認めない、「不屈」の象徴。賭けてゆて卵を50個食べたり、厳しい懲罰でも涼しい顔で笑うルークの無軌道さが印象的だ。ニューマンの笑顔モンタージュとなっているエンディングからもわかるが、血や土、汗にまみれていてもチャーミングという奇跡的存在なのだ。強大な権力に挑み続ける《永遠の反逆児》ポール・ニューマンの真骨頂とも言うべき快作。

■監督:ステュアート・ローゼンバーグ ■出演:ポール・ニューマン、ジョージ・ケネディ、J・D・キャノン
[1967年|127分|アメリカ|カラー|シネマスコープ|原題:Cool Hand Luke] © 1967 WBEI

